（６）女子中学高等学校の運営計画

校　長　浅 里 愼 也

2020 年度　年間聖句

「怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。」

ローマの信徒への手紙 12 章 11 節～12 節

はじめに

本校は 2018 年度から教育改革を１期・２期に分けて開始しました。教育改革第１期の最終年度にあたる今年度は、教育改革第１期の総括を行い教育改革開始当初に設けた目標達成のため力を尽くします。同時に 2020 年度以降の教育改革第２期（仮称:プロジェクト 2030）の具体案を女子中高「グランドデザイン 2030-2040」と関係づけ、学園グランドデザインとの関連を保ちながら策定します。今年度は教育改革と同じく財政健全化を重要課題として位置づけ対応策を検討し、10 年後を目標にバランスの取れた学校運営を目指します。当面の短期的課題を検討し対応を確実に実施すると同時に、女子中高グランドデザインに示した中長期的教育目標と検討実施計画を検討し策定に入ります。道内の高等学校において、私立公立ともに学校の存続をかけて、これまでの慣行にとらわれない教育内容の一新、学園内外との高大連携の推進や施設設備の効果的集約などの動きが加速しています。本校も時代の流れに遅れることなく教育を取り巻く環境や生徒・保護者の変化や動きに対応しつつ、創立者が掲げた建学の精神にある教育理念の実践と実現を目標とした学校教育改革（１期・２期）を確実に継続実施していきます。

2020 年度入試結果は一貫課程・高校課程ともに試験が終了していないため、最終報告まで時間が必要ですが、２月 10 日現在、昨年度比一貫課程入試は約 20%増、高校課程入試は約 15%減を予想しています。時間を置くことなく 2020 年度入試結果を分析し新年度入試対応策に反映させ入試広報・生徒募集活動を実施します。

財政健全化・教育改革と同じく今年度取組まなければならない大きな課題に働き方改革があります。働き方改革は教職員の労働環境を整えると同時に、増大する保護者からの要望にどのように答えるかを検討しなければならない両面を持つ課題です。教職員の協力だけに頼るのではなく、これまでに検討してこなかった方法も加えて、教職員と共に考え健康な職場づくりを行います。

また、財政健全化と深く関わる新給与体系の策定には、教職員の英知を結集して学校維持発展のために取組む覚悟が必要です。

最後に少子高齢化問題が叫ばれてから時間がたちますが、その影響は生徒募集活動だけでなく、若い教員の採用の困難さや教員の高齢化となって表れ始めています。

安易な決意では対峙できないこれらの課題を思う時、天の父なる神によって遣わされた創立者スミスを始め、教育改革者モンク、教育理念の継承者エバンスの今日の学校(学園)に続く足跡は我々に勇気と力を与えてくれます。

１.「建学の精神」に基づくキリスト教教育について

創立者スミスが「建学の精神」の中で本校の教育で最も重要であると書き残している「キリスト教に基づく“宗教的･霊的影響”」が、本校でおこなわれる全ての教育活動の土台にあることを確認して一年を過ごします。

これまで守り継続してきた礼拝（講堂・学級）を本校のキリスト教教育の中心に置き「神に喜ばれる人の生き方」「心と命の大切さ」を生徒に伝え、礼拝で学んだ事柄の実践をキリスト教諸行事などを通して創立者の教育理念実現に全教職員とともに取組んでいきます。

・学級礼拝、講堂礼拝の工夫と充実と内容の深化

・学年聖句を用いた６ヵ年間継続性のある礼拝と授業の継続
・地域教会との関係強化
・道徳の教科化についての研究の継続

２．学習指導及び生徒指導について

１）学習

建学の精神にも謳われ、本校の学習指導の土台である「色々な分野で役立つ知識を教育」の理念から検討し、近年本校が実施している「商品開発」、「SDGｓ教育」、「GSlob(総合学習)」、「スタディ・ツアー」等と教科教育と体験学習が融合した学習活動が評価を得始めています。入学した全ての生徒の学力向上を本校の学習指導の目標としますが、本校の学習指導が受験指導のみに終始するのではなく、生涯を通して必要とされる生きる力となって育成される学習を本校の学習活動の目標と考えます。同時に2020プロジェクト（教育改革第１期）最終年度にあたる今年度は、各科・コースと学年・分掌が連携を図り目標達成を目指します。

・言語教育(英語・国語)の研究
・ケンブリッジ英検の推進と研究
・放課後学習、部活動と学習支援の在り方研究
・リベラル アーツ教育の研究
・北星学園大学等との連携強化
・国内英語研修（長期・短期・国内）の研究

２）厚生

YWCA による教会での奉仕（子供おもちゃ図書館)、ZontaG クラブ、札幌ライラックまつり奉仕、老人施設訪問（神愛園手稲・ケア盤渓・他での賛美歌演奏・手作りクリスマスプレゼント)、他の活動を継続します。

３）クラブ指導

本校には全国・全道大会に出場するクラブから同好会まで幅広く多くの生徒が部活動に参加しています。これまで同様、指導上のいじめ及び体罰には十分注意を払い、調査等を通して指導上の事件事故が発生しないように注意を払い技量向上に努めます。近年の傾向として部活動と学習の両立を希望する入学生が増加し、本校の生徒募集に好影響を与えています。部活動と学業が両立可能な体制を更に整えます。

４）進路指導

本年度は 2020 プロジェクトの完成年度であり、普通科（Core コース/High コース）専門英語科・専門音楽科がプロジェクト開始当初に掲げた進路目標達成のため生徒の学力向上に努めます。

・学習合宿（Step1・High コース）の実施
・補習・講習の充実
・ガイダンスの充実
・大学新テスト対策研究

５）生活指導

近年生徒の学校生活で表に出る大きな問題はありませんが、小さな問題が内向し積み重なりメンタルな問題として表れることが多くなりました。いじめ等の調査を、注意を払いながら実施して、生徒状況をより早く把握するように努めます。スクールカウンセラー・保護者の協力とキリスト教学校として礼拝や聖書の時間を用いて心の問題にも取組みます。

・学校生活マナー指導５項目（挨拶・言葉遣い・大声を出さない・飲食・正しい制服の着用）の実施
・保護者が期待する生活習慣の習得

３．教員の資質向上について

学園の支援でそれまで実施できなかった研修・学校訪問等を９年間実施する中で得た見聞や体験を教育改革に生かすことが出来ました。今年は研修内容を更に吟味精査し、適任者を研修等に派遣し得た内容を教職員で共有します。教員として必要とされる力は教科力・学級経営力・コミュニケーション力（対生徒・教員間）・保護者対応など多岐にわたります。これらを確実に身に付けていく必要があります。

・担任研修（学級運営・保護者対応）の実施
・初任者研修・中堅教員研修（キリスト教学校教育同盟・私立中高協会・他）への参加
・校内外研修の実施と活用

４．生徒募集について

１）入試

既述しました 2020 年度入試の正確な最終結果は出ていませんが、昨年度比一貫課程入試は約 20%増、高校課程入試は約 15%減の厳しい結果を予想しています。入試結果を早急に分析し、今年度の募集活動に生かします。また受験生・保護者の目線にあわせたきめ細かい企画と他校にない本校独自の特色を更に効果的に PR して学校説明会・イベントへの参加者増を計画します。

・学校塾訪問体制の継続と強化
・中学受験（２科目・３科目・４科目）と英語試験導入の検証
・受験生増加対策の研究と実践
・専門英語科・音楽科の受験生動向の研究
・入試広報活動で得た情報の共有

２）広報

本校が現在行っている教育・学校活動（商品開発・SDGｓ教育・GSlob・スタディ・ツアー・他）など総合的な学びを例年以上に告知し、認知度を向上させ、説明会・問題解説会の参加人数増を優先的に追求します。新しい部長の下、これまでの蓄積に加えて新たなイベント・説明会・企画を立ち上げます。

・広報媒体の有効活用の研究
・説明会・問題解説会に繋がる広報研究
・オープンキャンパスの継続開催

５．教育環境及び施設設備、財政について

１）ICT 環境

これまでの教務部内 ICT 担当教員による検討組織を、今年度から ICT 委員会として立上げ、本校の今後の ICT 教育の企画立案を担います。小中学校全児童生徒へのタブレット配付（2023 年度）に備え、今年度中に教員がタブレットを使用できる環境を作り、ICT 活用と GSlob、SDGｓ、グローバル教育（言語教育）への導入を検討しています。同時に学園全体での ICT 教育についての論議を期待します。

・サポート体制の構築
・教員のデジタル指導書導入と活用
・キャリア教育・ICT 教材等の実践の継続と研究

２）財政目標、財政改善の取組み

今年度は財政健全化を最優先事項として、新年度予算編成において全ての分掌・教科・科コース・学年で予算削減を行いました。同時に教育活動への影響を考慮しつつ予算執行に際しての点検を実施します。

2020 年一貫課程受験で入試学生の約 20%増加が予想されることは財政健全化に向けて朗報です。入学生増の動きを高校課程にまでつなげる努力をしつつ、10 年後の財政健全化目

標に向けて努力します。同時に新給与体系移行に向けて女子中高としても努力します。

６．高大連携及び地域連携について

昨年度に続き Core コースに担当教員を配置し、北星学園大学・医療系大学との高大連携授業を行います。特に北星学園大学とは、前年度の総括を活かし、連携授業の課題を改善し、該当学年（５年）への事前指導を十分に行いながら継続実施します。

今年は一昨年から始まった町内会との校庭リンゴの共同育成、町内会雪明りづくり、中央区との食育教育連携事業に加え、救急医療講習会、校内行事（サラズステラ祭・スタディーツアーポスターセッション）への招待などを加え、町内との交流を進めます。

７．その他

１）学校運営のあり方

教職員で検討作成し３年目を迎えた科・コース中心の学校運営を継続します。同時に実施してきた学校運営体制の総括を行い、2020 年度以降の学校運営体制を構築します。

２）理事会との連携

学園を構成する学校としての意識を教職員と共有し、女子中高の特徴を活かす教育活動にあたります。

学園の歴史を担って来た学校としての働きと役割を果たし、社会と時代に認知評価される学園創造のために中等教育部門から理事会への協力を惜しみません。

３）学校改革

今後の学校運営は教育改革抜きには考えられません。数年に一度の小改革とカリキュラム改定に合わせた 10 年に一度程度の時代を先取りするような改革が必要だと考えています。2020 プロジェクトが終了の後は、総括を活かした 2020 年度以降の改革案を策定し実行していきます。本校は 130 年を超える歴史を持ち、その歴史を誇りとする学校ですが、改革にあたっては誇りとする歴史が新しい時代の学校づくりの枷になってはならないと考えます。歴史は現代に生かされて初めてその存在と役割を果たすものでなければならないと考えます。教職員の英知を集めて新しい時代を迎える学校づくりを行っていきます。

取組みたい教育

・グローバル教育（Cambridge English・リベラル アーツ教育・国際基準の教育・IB 教育）
・言語教育としての英語教育・多言語教育
・単位制・通信制教育の研究
・イマージョン教育（インターナショナルスクールとの関係）
・総合学園としての幼児・初等・中等教育の研究と実践
・キリスト教学校としての平和教育

以　上